

# 群、来

第76号 令和元年6月30日発行

編集・発行 秋田県水産振興センター  
〒010-0531  
秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8-4  
TEL 0185-27-3003 FAX 0185-27-3004

## 新たな栽培漁業施設が完成しました

増殖部部长 中林 信康

昭和から平成を経て40年近くにわたり、本県のつくり育てる漁業を担ってきた栽培漁業施設が、このたび機能を強化し生まれ変わりました。これまでは主に昭和55年4月に開所した旧栽培漁業センターの施設を用いて、公益財団法人秋田県栽培漁業協会とともに、マダイやヒラメを始めとした有用魚介類の種苗生産と放流技術の開発により大量放流を進め、資源の維持・増大に努めてきました。しかし、施設の老朽化に加え、水槽の規模や形状などの設計が古いことから、最新の生産技術を取り入れることが困難となっていたほか、消費者ニーズや海洋環境の変化を踏まえた新たな栽培対象種の導入を検討していく中で、技術開発用の小型水槽が少ないなど多くの課題も抱えていました。

そこで、それらの課題解決に向け、平成28年から旧施設の建替え工事を進めてきたもので、平成31年3月までの3か年で「海水ろ過・貯水設備」と「機械棟」並びにマダイ、ヒラメ、キジハタなどの親魚養成や稚魚の餌をつくる「親魚棟」、トラフグなどの種苗生産技術開発やマダイ種苗などの量産を行う「生産棟」と「育成棟」を順次整備し、この4月から本格的な稼働を開始するとともに、令和元年5月24日に無事、竣工式を終えました。

これまでと違う大きな特徴として、親魚棟と生産棟では同じ海水をくり返し利用できる「閉鎖循環システム」を装備したことがあげられ、これにより海水の汲み上げと加温に要する経費の削減を図ります。また、海水ろ過槽も毎年の高額なろ過砂の交換が不要な設備としました。このような機能強化により新しい施設では、低コストで効率的な種苗の生産を目指しています。さらに、多くの小型水槽を備えたことで、同時に様々な条件での試験が可能になり技術開発のスピードも加速できると考えています。

今後、それらの施設や設備を最大限に活用し、これまで取り組んできた魚種の安定生産とともに、キジハタやワカメを始めとする生産拡大が期待される魚介類などについても増殖・養殖の技術開発に努めていきます。加えて、漁獲量の減少や魚価の低迷が続く、温暖化など海洋条件も大きく変容している中においては、それら様々な状況の変化に即応し、漁業所得の向上に直結する技術を開発し展開することが、新しい栽培漁業施設の使命と考えています。また、一部の施設は、漁業者が自主的に取り組む蓄養殖試験などにも使っていただくことを想定しており、様々な機会をとらえて浜のニーズを円滑にこれらの技術開発に反映させ、本県水産業の未来を切り拓くべく、つくり育てる漁業を進化・発展させていきたいと考えています。

## 栽培漁業施設の竣工式が挙行されました



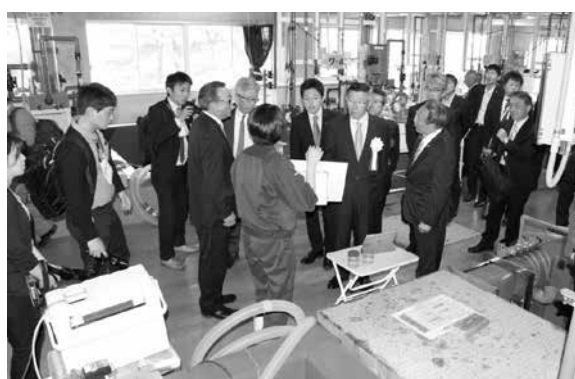
竣工式（式典）



テープカット

令和元年5月24日、当センターの講堂において、約100名にのぼる多数のご来賓、ご関係者のご列席のもと、新たな栽培漁業施設の竣工式が挙行されました。式典では知事の式辞と建設工事の功労者への感謝状贈呈に続き、ご来賓の方々からはたくさんのご祝辞をいただきました。

また、施設の前に移動してテープカットを行ったあと、施設内に入り、閉鎖循環システムなどの新たな設備や飼育中の魚などを見学していただきました。



施設見学

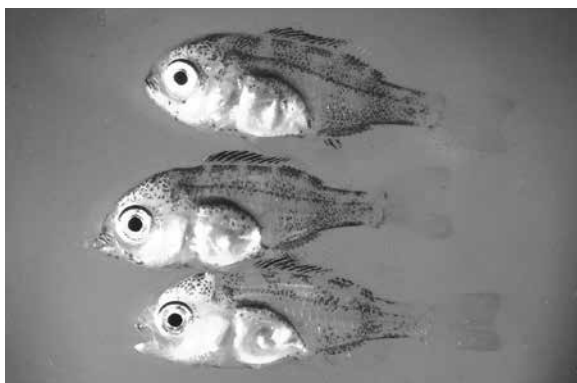
### ●天皇陛下御即位記念●

## 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会を開催します

リニューアルした栽培漁業協会では、9月7～8日に開催される「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」で放流されるマダイとトラフグを飼育中です。元気な稚魚を放流できるよう大会まで大切に育てていきます。

あきた大会の式典行事では、功績団体等の表彰や優秀作文の発表、ハタハタ・サクラマス・エゾアワビ・ワカメの種苗のお手渡し、各地区の若手漁業者などによる海づくりメッセージの発表等が、また、海上歓迎・放流行事では、漁船パレードと稚魚の放流が予定されています。

大会では、「つくり育てる漁業」の取組を力強く全国に発信するとともに、この大会を契機として、漁業関係者の皆様とともに、秋田の水産業の未来を切り拓いていきます。



マダイ（ふ化後33日目、全長14.4mm）



トラフグ（ふ化後28日目、全長9.3mm）